

橋りょう耐震補強計画（案）

平成25年11月15日

 秦野市建設部道路管理課

目 次

1. 耐震補強計画策定の目的	1
2. 本市の地理的な特徴と代表的な橋りょう	2
3. 橋りょうの耐震補強計画とは	3
4. 橋りょうの耐震補強の要否判定	4
5. 橋りょうの耐震補強計画フローチャート	5
6. 橋りょうの耐震補強対策	7
7. 橋りょうの耐震性能の設定	9
8. 橋りょうの耐震補強計画の策定	10
9. 橋りょうの耐震補強計画の概要	12
10. 考察	12

1. 耐震補強計画策定の目的

阪神淡路大震災では、特に古い耐震基準(昭和 55 年道路橋示方書より古い基準) の橋りょうを中心に落橋をはじめ甚大な被害を受け、市民生活に大きな影響を与えました。

近年、被害を伴う大地震が多数発生し、本市においては、東海地震、神奈川県西部地震等の発生の切迫性が指摘されています。このため、本市が管理する橋りょうは、大地震により大きな被害をもたらすことが想定され、安全・安心に利用できるようにするためには、建設当時の耐震性能の向上を目的とした橋りょうの耐震補強を早急に実施することが必要です。

また、秦野市地域防災計画(地震災害対策計画)においても、道路等の公共施設は、避難、消火、救急活動など災害の拡大を防止するうえで重要な役割を果たすため、地震発生時には必要な機能が十分発揮できるように事前に整備しておくことが重要であることが指摘されています。

しかし、本市が管理する全ての橋りょうに対して耐震補強を実施するには、長い時間と莫大な費用が掛かることが予想されます。

いまだ国からは、耐震補強計画策定の具体的な方針が明示されていない中ですが、本市としては路線の重要度や橋りょうの規模等を考慮した優先順位をつけ、また、橋りょう長寿命化修繕計画とも調整を図って効率的な工事が実施できるように平成 26 年度から平成 35 年度までの 10 か年を第一次と第二次に分けた橋りょう耐震補強計画を策定するものです。

2. 本市の地理的な特徴と代表的な橋りょう

本市は、神奈川県内の県央地域の西部に位置し、東には伊勢原市、西には松田町、大井町、南には中井町、平塚市、北には厚木市、清川村、山北町が接し、神奈川県内 33 市町村のうち 6 番目の広さです。

東京から約 60 km、横浜から約 37 km の距離にあり、北方には神奈川県の屋根と呼ばれている丹沢山塊が連なり、南方には渋沢丘陵が東西に走り、県内で唯一の盆地を形成しており、東・北・西の三方を丹沢山塊の大山(1,251 m)、三ノ塔(1,205m)、塔ノ岳(1,491m)、鍋割山(1,272m)などの谷の深い壮年期の山々に囲まれ、南を更新世末に隆起したなだらかな渋沢丘陵に遮られた地形となっています。そのため、山々を上流とする金目川、葛葉川、水無川、四十八瀬川などの川を渡河する橋りょうが多くあります。

本市が管理する橋りょうのうち、金目川、葛葉川を渡河する橋りょうには橋長 50m 以上のものが、また、東名高速道路、小田急電鉄、県道・市道を跨ぐ橋りょうには橋長 170m を越えるものが存在します。本市における代表的な橋りょうは表-2.1 に示すとおりです。

表-2.1 本市における代表的な橋りょう



図-2.1 本市の地勢図

【河川橋:金目川】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	
1	鈴中橋	206	蓑毛	東	14.00	3.00	—	1	
2	蓑毛新橋	204	蓑毛/東田原	東	32.00	5.50	—	1	
3	宮開戸橋	207	蓑毛/東田原	東	21.20	3.30	—	1	
4	才戸橋	58	蓑毛/東田原	東	13.86	5.50	—	1	
5	金目川橋	5	寺山/東田原	東	20.10	7.00	2.00	1	
6	下落合橋	62	曾屋/入船町	本町	28.50	6.50	1.50	1.00	1
7	十代橋	63	曾屋/末広町	本町	31.00	6.00	2.20	2.20	1
8	天王下橋	357	曾屋/元町	本町	24.00	4.50	—	—	2
9	大安橋	386	曾屋/河原町	本町	35.40	4.50	—	—	1
10	中野橋	328	曾屋	本町	34.20	4.50	1.50	—	2
11	蓬来橋	333	曾屋	本町	60.50	7.00	2.00	—	2
12	中里橋	331	曾屋/上大槻	本町	40.00	3.60	—	—	4
13	東名大槻橋	26	下大槻	大根	60.50	9.25	2.00	—	2
14	南平橋	68	下大槻	大根	39.00	6.60	3.00	—	2

【河川橋:葛葉川】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	
1	桜沢橋	107	菩提	北	12.00	6.00	—	—	1
2	四山橋	109	菩提	北	23.76	5.00	1.50	—	1
3	向山橋	114	菩提	北	23.50	5.00	—	—	1
4	上葛葉橋	53	菩提	北	31.00	6.00	—	—	2
5	小羽根橋	156	羽根/菩提	北	22.70	6.00	—	—	1
6	中村橋	4	羽根/菩提	北	24.25	6.00	—	—	1
7	扇沢橋	302	羽根/曾屋	北/本町	22.90	4.50	—	—	1
8	葛葉橋	56	西田原/曾屋	東/本町	24.00	4.30	1.50	—	3
9	葛葉大橋	12	西田原/曾屋	東/本町	65.00	7.00	1.50	1.50	1
10	九沢橋	318	曾屋	本町	22.00	6.00	1.50	—	1

【河川橋:水無川】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	
1	鶯橋	—	戸川/堀山下	北/西	39.00	6.00	2.00	—	1
2	堀戸大橋	23	戸川/堀山下	北/西	42.00	10.00	3.60	3.60	1
3	塚原橋	1800	三屋/堀山下	北/西	39.07	6.00	1.50	1.50	2
4	水無瀬橋	14	曾屋/平沢	本町/南	39.40	13.00	2.50	2.50	2
5	富士見大橋	12	富士見町/新町	本町/南	43.20	8.00	1.70	1.70	2
6	緑風橋	631	富士見町/清水町	本町/南	45.20	6.00	2.00	2.00	1
7	桜橋	59	桜町二丁目/上今川町	本町/南	37.80	7.00	3.00	3.00	1
8	まほろば大橋	82	本町二丁目/大森町	本町/南	35.10	—	18.58	—	1
9	平成橋	22	本町二丁目/大森町	本町/南	36.00	10.00	3.00	3.00	1
10	常盤橋	349	本町二丁目/室町	本町/南	40.00	6.50	1.75	1.75	2

【河川橋:四十八瀬川】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	
1	才戸橋	18	堀西/三廻部	西/上	30.76	6.75	1.00	—	1
2	甘柿橋	837	堀西/葛蒲	西/上	33.50	6.50	—	—	3
3	田頭橋	834	堀西/葛蒲	西/上	42.00	3.00	—	—	7

【跨道橋:東名高速道路】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	
1	大椿橋	421	鶴巻北三丁目/鶴巻	鶴巻	40.00	—	3.10	—	1
2	上ノ窪橋	406	鶴巻	鶴巻	40.40	5.00	1.50	—	1
3	鉢ノ木橋	534	北矢名	大根	41.40	7.00	1.50	—	1
4	向原橋	532	北矢名/南矢名	大根	40.40	5.00	—	—	1
5	井戸窪橋	530	南矢名	大根	41.30	6.00	1.50	—	1
6	矢名橋	512	南矢名	大根	42.27	5.00	1.50	—	1
7	峰ノ上橋	469	下大槻	大根	40.40	5.00	—	—	1
8	芹沢橋	761	上大槻	本町	40.40	5.00	—	—	1
9	上原橋	658	上大槻	本町	66.40	4.00	—	—	3

【跨線橋:小田急電鉄】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	備考
1	巻頭跨線橋	64	鶴巻	鶴巻	22.20	5.00	1.25	1.25	1
2	南矢名陸橋	26	南矢名	大根	171.50	6.50	—	—	8 市道9号線も跨ぐ
3	天神橋	10	上大槻	本町	27.30	7.00	1.50	—	1

【跨道橋:県道・市道】

No.	橋梁名	路線名	場所	地区	橋長(m)	車道幅員(m)	歩道幅員(m)	径間	備考
1	開戸橋	668	西大竹/立野台二丁目	南	22.95	4.50	—	—	1 秦野二宮線
2	なかまる橋	1812	渋沢	西	23.20	6.50	—	—	1 秦野大井線
3	的橋	753	南が丘四丁目/南が丘一丁目	南	29.00	—	6.40	—	1 市道752号線

※ 架橋位置が地区を結ぶ場合、河川橋は「左岸側/右岸側」、跨線橋・跨道橋は「起点/終点」のように場所及び地区を表記します。

3. 橋りょうの耐震補強計画とは

今回定める耐震補強計画は、古い耐震基準により整備された橋りょうを現行の基準に照らし、各々の橋りょうが今要求されている基準に合致させるための手順を定めるものです。

計画における第一段階としては、耐震補強の対象となる橋りょうを選抜することです。次に選抜された橋りょうに対して耐震の調査や診断を行い、補強の必要性の有無を明確化するとともに、補強が必要な場合は、その対策工事をどの順番で実施していくのかを定めるものです。

橋りょうの耐震補強計画の手順は、次のように進めていきます。

・ 耐震補強が必要な橋りょうの選抜

（ B種の橋、A種の橋の区別の実施
車道橋、人道橋の区別の実施 ）



・ 耐震性調査の実施

机上作業
既存資料（橋梁台帳、竣工図面等）の収集・整理
現場作業
桁かかり長、斜角の計測
橋脚の部材寸法計測、配筋状態の確認



・ 耐震性要否判定のために耐震性診断の実施

（ 橋脚の耐震性診断
落橋防止システムによる耐震性診断 ）



・ 耐震補強が必要な橋りょうに対して耐震補強設計の実施

（ 橋脚の耐震補強設計
落橋防止システム補強設計 ）



・ 耐震補強工事の実施

（ 橋脚の耐震補強工事
落橋防止システム補強工事 ）

4. 橋りょうの耐震補強の要否判定

橋りょうの耐震補強の要否を判定するフローチャートを図-4.1 に示します。

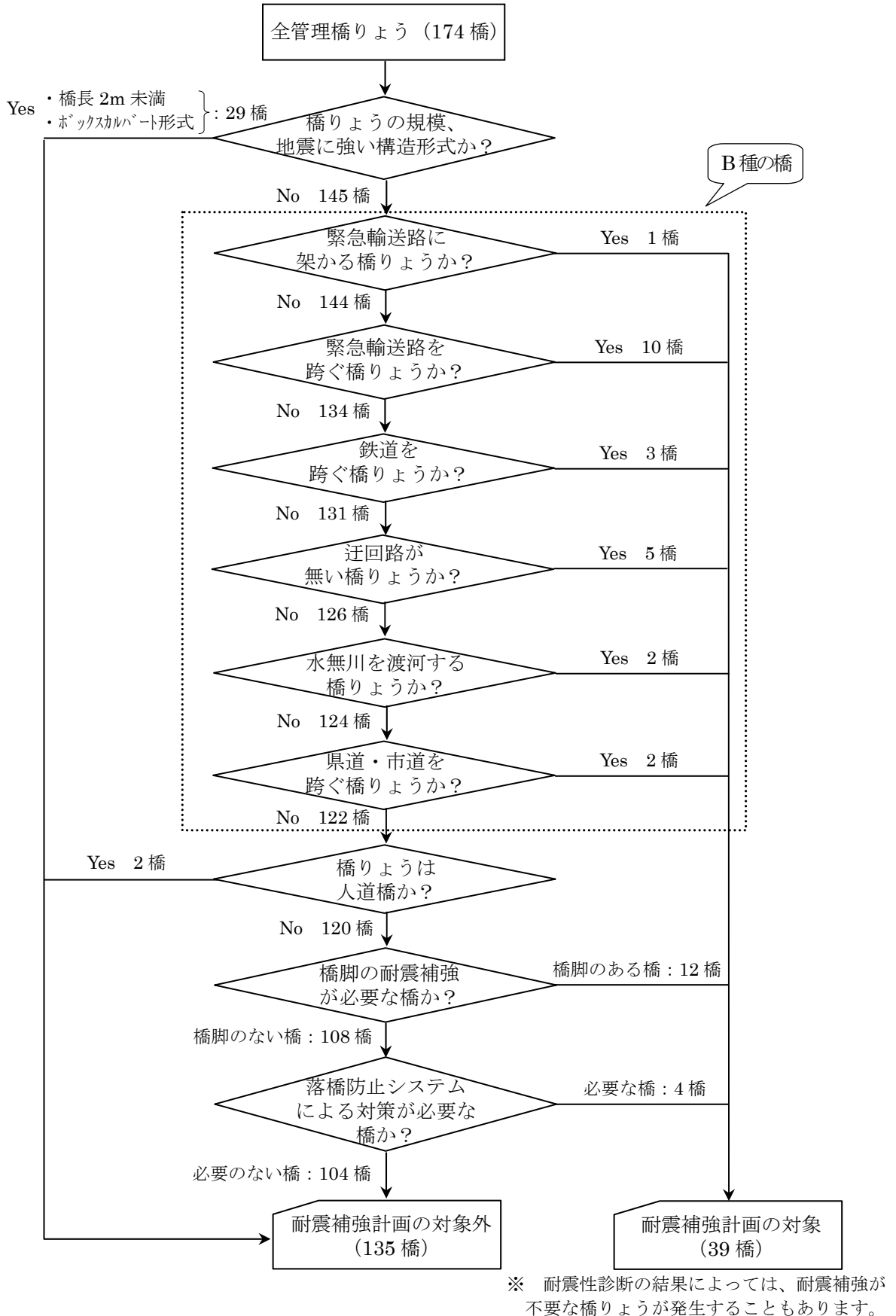


図-4.1 橋りょうの耐震補強の要否判定フローチャート

5. 橋りょうの耐震補強計画フローチャート

橋りょうの耐震補強計画フローチャートを図-5.1 に示します。参考として、既に策定済みである橋りょう長寿命化修繕計画のフローチャートを図-5.2 に示します。

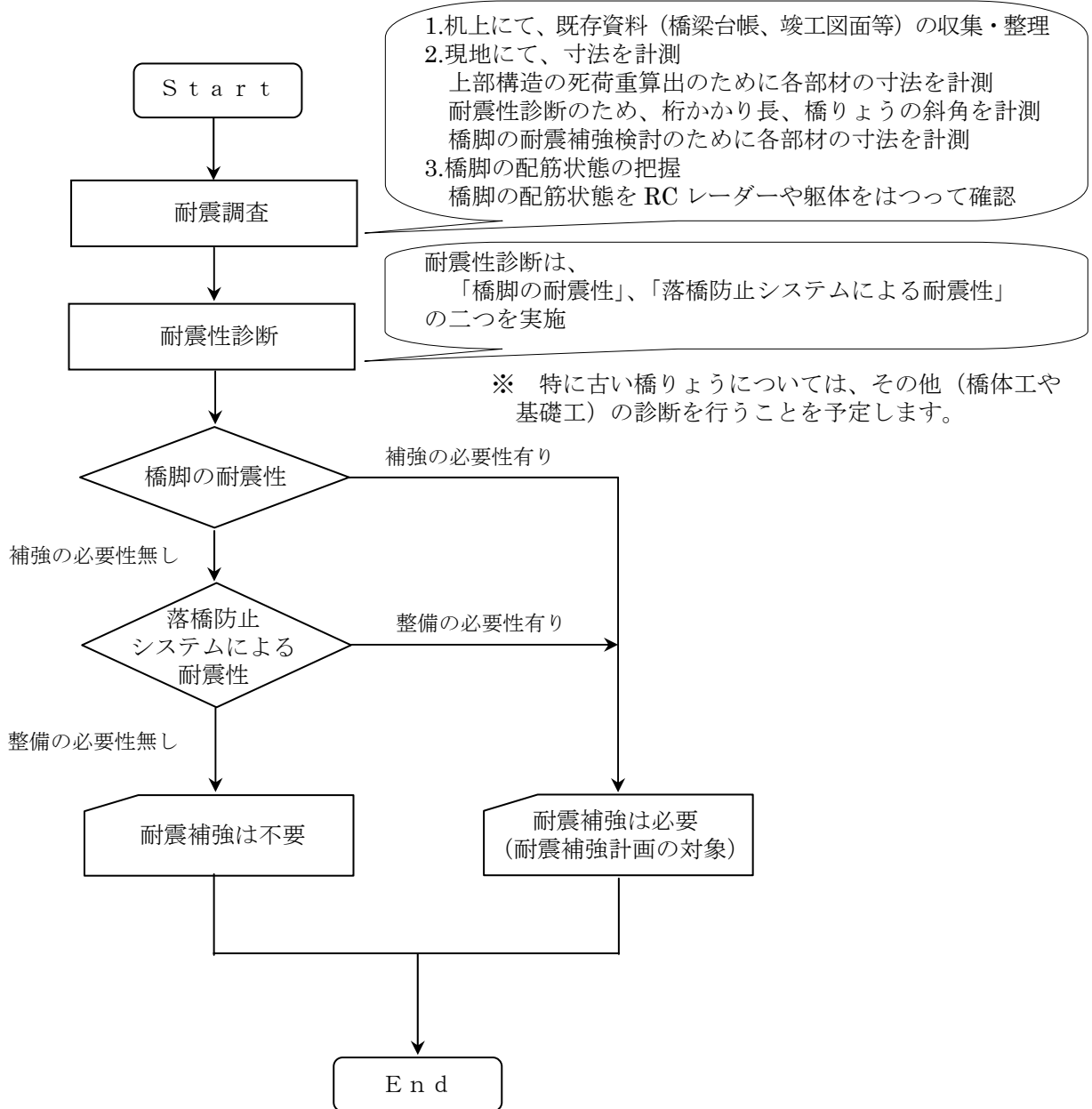


図-5.1 橋りょう耐震補強計画のフローチャート

参考として、橋りょう長寿命化修繕計画のフローチャートを図-5.2 に示します。

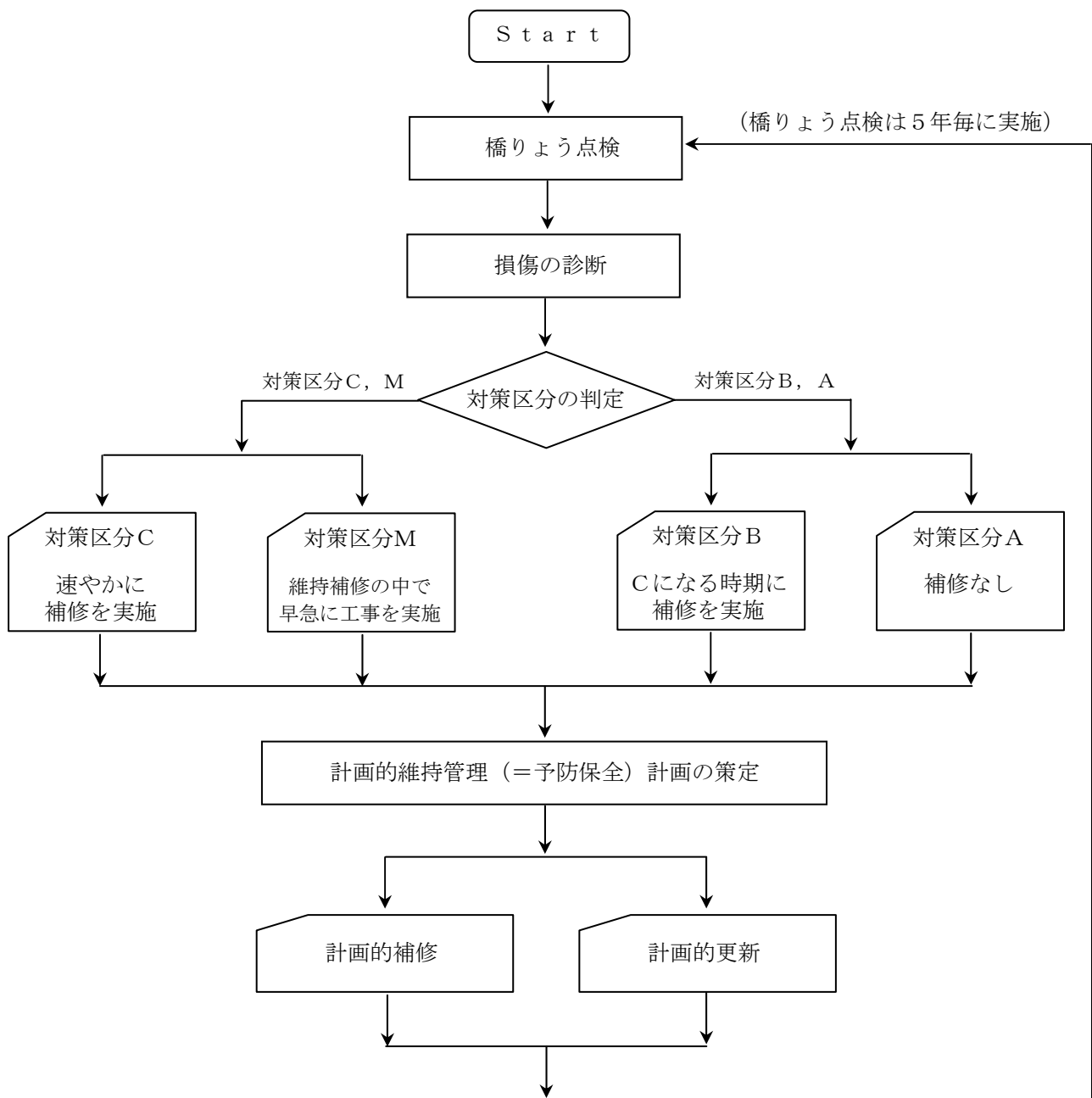


図-5.2 橋りょう長寿命化修繕計画のフローチャート

※ 橋りょう長寿命化修繕計画は、小規模な修繕を繰り返して行い、橋りょうの健全度を保ちながら長寿命化を図り、費用の平準化及び縮減を図って、道路網の安全性・信頼性を確保することを目的としています。

6. 橋りょうの耐震補強対策

橋りょうの耐震補強対策には、補強する部位によって二つの対策があります。

(1) 橋脚の補強

大地震により橋脚が壊れないようにするため、「橋脚」をコンクリートや鋼板、炭素繊維シートを使って巻き立てる補強対策です。

		耐震補強事例写真及び概念図	
耐震補強事例	RC 巻き立て補強	<p>写真-1 補強事例 (東名高速道路: 南矢名高架橋)</p>	<p>図-1 RC 巻き立て補強の概念図</p>
	鋼板巻き立て補強	<p>写真-2 補強事例 (国道 246 号線: 金田陸橋)</p>	<p>図-2 鋼板巻き立て補強の概念図</p>

(2) 落橋防止システムの整備

大地震の振動により橋桁が落ちないようにするため、「落橋防止システム」を整備する対策です。ここで、落橋防止システムを構成する要素と機能を表-6.1 に示します。

表-6.1 落橋防止システムを構成する要素と機能

構成する要素	機能
桁かかり長	橋桁が橋座より逸脱することを防止する機能
落橋防止構造	橋桁が地震時の移動変位により橋座から強制的に超えないようにする機能
横変位拘束構造	斜橋・曲線橋の橋桁が橋軸直角方向に変位することを拘束する機能

具体的な構造として、①上部構造と上部構造または下部構造を連結する構造（緩衝チェーン、PCケーブル、アンカーバー等）、②上部構造に突起を設ける構造、③下部構造に突起を設ける構造（突起は主にRC構造または鋼構造）が一般的です。

耐震補強事例写真	
落橋防止システム整備事例	 <p>①上部構造と下部構造を連結する構造 ②上部構造に突起を設ける構造</p> <p>写真3 緩衝チェーン整備事例（県道40号線：海老名高架橋）</p>
	 <p>①上部構造と下部構造を連結する構造</p> <p>写真4 PCケーブル整備事例（国道246号線：秦野大橋）</p>
	 <p>①上部構造と上部構造を連結する構造</p> <p>写真5 PCケーブル整備事例（県道71号線：桜ヶ丘陸橋）</p>
	 <p>③下部構造に突起を設ける構造</p> <p>写真6 鋼製突起整備事例（東名高速道路：蓼川橋上り）</p>

7. 橋りょうの耐震性能の設定

目標とする耐震性能は、最新の基準である「道路橋示方書・同解説 V耐震補強編、平成24年3月」(以下、「H24道示V編」という)に準拠します。

本市における橋りょうの耐震性能は、次のように設定します(なお、設計に用いる地震動は、大きな強度をもつレベル2地震動とします)。

(1) 橋の重要度の区分

橋の重要度の区分は、「H24道示V編」の表-2.3.1において、B種の橋、A種の橋に区分されます。

橋の重要度の区分	H24道示V編において対象となる橋	本市において対象となる橋
B種の橋	<ul style="list-style-type: none"> 高速自動車国道、都市高速道路、指定都市高速道路、本州四国連絡道路、一般国道の橋 都道府県道、市町村道のうち、複断面、跨線橋、跨道橋及び地域の防災計画上の位置付けや当該道路の利用状況等から特に重要な橋 	<ul style="list-style-type: none"> 「跨線橋、跨道橋」 「地域の防災計画上の位置付けの橋」として、緊急輸送路に位置する橋 「当該道路の利用状況から特に重要な橋」として、次の(1)、(2)のような橋 (1)迂回路が無く、移動に時間が掛かるまたは孤立してしまう路線にある橋 (2)地域間を結び、災害時に物資・緊急車両等の移動に欠かせない主要なアクセス路(R12,R14,R23)となる水無川を渡河する橋
A種の橋	上記以外の橋	上記以外の橋

出典：道路橋示方書・同解説
V耐震補強編、平成24年3月

(2) 目標とする耐震性能

目標とする橋の耐震性能は、「H24道示V編」の表-解2.2.2において、B種の橋は耐震性能2、A種の橋は耐震性能3に区分されます。

橋の重要度の区分	設計地震動	
	レベル1地震動	レベル2地震動
B種の橋	地震によって橋としての健全性を損わない性能 (耐震性能1)	地震による損傷が限定的なものに留まり、橋としての機能の回復が速やかに行い得る性能 (耐震性能2)
A種の橋		地震による損傷が橋として致命的とならない性能 (耐震性能3)

出典：道路橋示方書・同解説
V耐震補強編、平成24年3月

耐震補強の対象はレベル2地震動となります。

8. 橋りょうの耐震補強計画の策定

耐震補強計画の策定に当たり、路線の重要度や橋りょう規模を考慮した優先順位と対象となる橋りょう数を表-8.1 に示します。

表-8.1 目標性能レベル及び管理区分に応じた耐震補強の対象橋りょう数

橋りょうの重要度	橋の重要度の区分	橋の耐震性能	優先順位	内訳		要耐震補強橋りょう数	耐震補強内容		備考	
							橋脚補強	落橋防止システム		
高 ↑ 低	B種の橋	耐震性能2	①	緊急輸送路に架かる橋りょう	大規模地震時などに緊急輸送路として交通の確保を目的とする重要路線にある橋りょう	1橋	1橋	1橋	富士見大橋	
			②	緊急輸送路を跨ぐ橋	東名高速道路	第三者被害を与える可能性のある橋りょう (東名高速道路や小田急電鉄を跨ぐ)	9橋	1橋	9橋	
			③		県道		1橋	0橋	1橋	
			④	跨線橋	小田急電鉄		3橋	1橋	3橋	屋敷跨線橋、1号跨線橋は小田急電鉄の管理橋りょうであるため除く
			⑤	当該道路の利用状況から特に重要な橋	迂回路	迂回路が無く、移動に時間が掛かる、又は孤立してしまう路線にある橋りょう	5橋	0橋	5橋	
			⑥		水無川を渡河する橋りょう	地域間を結び、災害時に物資・緊急車両等の移動に欠かせない主要なアクセス路(R12,R14,R23)となる水無川を渡河する橋りょう	2橋	1橋	2橋	
			⑦	跨道橋	県道・市道	第三者被害を与える可能性のある橋りょう(県道・市道を跨ぐ)	2橋	0橋	2橋	
					小計	23橋	4橋	23橋		
	A種の橋	耐震性能3	⑧	バス路線	市民の足としての役割を果たすバス路線にある橋りょう	3橋	3橋	3橋		
			⑨	1級・2級市道	地域間を結ぶ主要な道路網にある橋りょう	6橋	4橋	6橋	矢ヶ瀧橋は架替予定のため除く	
			⑩	橋長15m以上の橋りょう	上記を除く橋長15m以上の橋りょう	7橋	5橋	5橋	田頭橋は架替中のため除く	
⑪			橋長15m未満の橋りょう	上記を除く橋長15m未満の橋りょう	0橋	0橋	0橋	斜橋・曲線橋に該当する橋りょうはない		
						小計	16橋	12橋	14橋	
				合計	39橋	16橋	37橋			

表-8.2 優先グループ毎の耐震補強計画対象橋りょう一覧表

耐震補強計画														
重要度 区分	優先 順位	整理 番号	No.	橋梁名	路線名	場所	地区	交差物名称	橋長 (m)	有効 幅員(m)	径間	上部構造 材料形式	施工年	経過 年数
B種の 橋	①	1	15	富士見大橋	12	富士見町/新町	本町/南	水無川	43.20	11.40	2	PC橋	S40.3	48
		2	147	上原橋	658	上大槻	本町	東名高速	66.40	4.00	3	PC橋	S43.8	44
		3	149	芹沢橋	761	上大槻	本町	東名高速	40.40	5.00	1	鋼橋	H5.4	20
		4	116	峰/上橋	469	下大槻	大根	東名高速	40.40	5.00	1	鋼橋	H5.10	19
		5	105	上ノ窪橋	406	鶴巻	鶴巻	東名高速	40.40	6.50	1	鋼橋	H6.9	18
		6	106	大椿橋	421	鶴巻北三丁目/鶴巻	鶴巻	東名高速	40.00	3.10	1	鋼橋	H7.1	18
		7	129	井戸窪橋	530	南矢名	大根	東名高速	41.30	7.50	1	鋼橋	H6.9	18
		8	132	鉢ノ木橋	534	北矢名	大根	東名高速	41.40	8.50	1	鋼橋	H6.9	18
		9	124	矢名橋	512	南矢名	大根	東名高速	42.27	6.50	1	鋼橋	H7.8	17
		10	131	向原橋	532	北矢名/南矢名	大根	東名高速	40.40	5.00	1	鋼橋	H7.5	17
	③	11	148	開戸橋	668	西大竹/立野台二丁目	南	秦野二宮線	22.95	4.50	1	PC橋	S56.3	32
	④	12	49	巻頭跨線橋	64	鶴巻	鶴巻	小田急	22.20	7.50	1	PC橋	S56.11	31
		13	14	天神橋	10	上大槻	本町	小田急	27.30	8.50	1	PC橋	H3.7	21
		14	203	南矢名陸橋	26	南矢名	大根	小田急、市道9号線	171.50	6.50	8	混合橋	H6.3	19
	⑤	15	26	才戸橋	18	堀西/三廻部	西/上	四十八瀬川	30.76	7.75	1	鋼橋	S50.9	37
		16	16	葛葉大橋	12	西田原/曾屋	東/本町	葛葉川	65.00	10.00	1	鋼橋	S59.3	29
		17	104	大安橋	386	曾屋/河原町	本町	金目川	35.40	4.50	1	PC橋	S59	29
		18	62	山内橋	110	菩提	北	本沢	30.00	4.50	2	PC橋	H9.12	15
		19	6	金目川橋	5	寺山/東田原	東	金目川	20.10	11.00	1	PC橋	H13.3	12
	⑥	20	20	水無瀬橋	14	曾屋/平沢	本町/南	水無川	39.40	18.00	2	PC橋	S44.3	44
21		201	堀戸大橋	23	戸川/堀山下	北/西	水無川	42.00	17.20	1	鋼橋	H4.3	21	
⑦	22	214	なかまる橋	1812	渋沢	西	秦野大井線	23.20	6.50	1	PC橋	H7.10	17	
	23	161	的橋	753	南が丘四丁目/南が丘一丁目	南	市道752号線	29.00	6.40	1	RC橋	S57.3	31	
A種の 橋	⑧	24	174	甘柿橋	837	堀西/菖蒲	西/上	四十八瀬川	33.50	6.50	3	PC橋	S40.4	48
		25	51	南平橋	68	下大槻	大根	金目川	39.00	9.60	2	PC橋	S44.2	44
		26	100	蓬来橋	333	曾屋	本町	金目川	60.50	9.00	2	PC橋	S57.3	31
	⑨	27	42	葛葉橋	56	西田原/曾屋	東/本町	葛葉川	24.00	5.80	3	RC橋	S30.11	57
		28	41	丹沢橋	54	菩提	北	新田川	16.00	3.60	2	RC橋	S35.3	53
		29	38	上葛葉橋	53	菩提	北	葛葉川	31.00	6.00	2	PC橋	S44.3	44
		30	5	中村橋	4	羽根/菩提	北	葛葉川	24.25	6.00	1	PC橋	S54.3	34
		31	19	下中尾橋	13	今泉/今泉台一丁目	南	室川	20.60	7.00	1	PC橋	S58.7	29
		32	215	東名大槻橋	26	下大槻	大根	金目川	60.50	11.25	2	PC橋	H11.4	14
	⑩	33	99	中里橋	331	曾屋/上大槻	本町	金目川	40.00	3.60	4	PC橋	S33.4	55
		34	103	天王下橋	357	曾屋/元町	本町	金目川	24.00	4.50	2	PC橋	S38.2	50
		35	102	常盤橋	349	本町二丁目/室町	本町/南	水無川	40.00	10.00	2	PC橋	S43.3	45
		36	194	塚原橋	1800	三屋/堀山下	北/西	水無川	39.07	9.00	2	PC橋	S51.1	37
		37	101	根下橋	334	室町/上大槻	南/本町	室川	16.50	4.50	1	鋼橋	S62.3	26
		38	92	金目原橋	262	寺山	東	陸橋	60.00	4.50	3	鋼橋	S62.9	25
		39	204	堀八幡橋	57	堀西/堀山下	西	堀川	30.00	8.25	1	鋼橋	H5.3	20

9. 橋りょうの耐震補強計画の概要

耐震補強が必要な橋りょう数は 39 橋（内訳は B 種の橋が 23 橋、A 種の橋が 16 橋）です。円滑な事業の推進を図るために耐震補強計画は次のように実施いたします。

- ・耐震補強計画の全体概要：

耐震補強計画の名称	対象橋梁数	備考
耐震補強計画	第一次	23橋(B種の橋)
	第二次	16橋(A種の橋)
次期耐震補強計画	135橋	

- ・計画年数：10か年のうち、第一次5か年計画（平成26年度～平成30年度）

10. 考察

(1) 次期耐震補強計画の実施の必要性

本計画は、耐震補強計画の第一次5か年としてB種の橋：23橋、第二次5か年としてA種の橋：16橋を対象に計画したものです。次に135橋を対象とした次期耐震補強計画を実施する必要があります。

(2) 事業費の確保

耐震補強に係る事業費は、本計画の中で明らかになったように多額の費用が必要なため、予算を確保しなければなりません。東名高速道路を跨ぐ橋りょうは、自然地形以外の人工的な理由により架設されたものです。このような橋りょうに関しては、特段の事業費等の援助を国やNEXCO中日本に対して要望していきたい。